

「九州圏広域地方計画中間整理」の概要

第1章 計画策定の意義と計画の性格

1. 計画策定の意義

- ・ 時代の要請に適切に応えていくため、長期的かつ総合的な観点から九州圏の今後の発展の基本方向を展望し、九州圏における国土（以下「圏土」という。）の形成に関して重点的に取り組むべき基本的な対応方針等を明らかにする。

2. 計画の性格

- ・ 広域地方計画は、全国計画を基本として、各広域ブロックにおける国土形成に関する方針や目標、広域の見地から必要となる主要な施策を定めるものである。また、国の地方支分部局、関係都府県・政令市、地元経済界等が対等な立場で協議し、策定する総合的な長期計画である。

第2章 九州圏における現状と課題

第1節 九州圏の位置づけと圏土構造の特徴

1. 東アジア、近接地域等に開かれた九州圏

- ・ 我が国の中で東アジアに最も近い圏域に位置し、歴史的にも我が国の対外交流の最前線として、常に海外からの刺激を受けつつ発展してきた。
- ・ 21世紀においては、東アジア諸地域との多彩な交流・連携が展開され、東アジア規模での生産ネットワークの構築や経済・産業面での連携の動きが活発化しているなど、国際交流の重要な拠点となっている。
- ・ 日本海、西日本、太平洋新国土軸の結節点に位置し、地理的に近接する中国圏、四国圏及び沖縄等との交流・連携による結びつきも進展している。

2. 基幹都市圏が適度に分散し都市と自然が近接する圏土構造

- ・ 福岡と北九州を中心とした都市圏では、三大都市圏に次ぐ都市圏が形成され、県庁所在都市等を中心とした基幹都市圏が、東西南北に適度な間隔で分散している。
- ・ 離島・半島、中山間地域広く分布しており、離島数は全国比で約40%、離島人口は約52%を占め、半島地域は8箇所が指定されている。また、中山間地域は、九州圏の人口の約22%、面積の約61%、耕地面積の約51%を占めている。

3. 九州圏全体を牽引し次世代を担う産業の集積

- ・ 温暖な気候や豊かな自然環境から農林水産業が盛んであり、我が国の食料・木材供給を支える地域として重要な地位を占めている。
- ・ 地域資源の有効活用等により観光客が増加傾向にあるとともに、東アジアを始めた外国人観光客が年々増加するなど、一大観光地を形成している。
- ・ 「シリコンアイランド」「カーアイランド」と呼称されるまでに半導体関連産業、自動車関連産業の集積が進むとともに、環境・エネルギー等の新分野で全国の最先端を行く技術・産業集積が図られつつある。

- ・ ソフトウェア等のビジネス支援関連分野や文化・情報発信を担う映像・コンテンツ、ファッション関連等の新たな産業展開が期待される分野の集積も進展している。

4. 離島を抱く外洋に囲まれ、急峻な山地と急流河川、豊かな森林・水資源に恵まれた自然環境

- ・ 台風の接近頻度が高く、梅雨期には集中豪雨が多発するなど、洪水、土砂災害、高潮災害等による被害が頻発していることに加え、近年の地球温暖化の進行により、異常気象の増加等が予測されるなど、災害に対してリスクが増大している。
- ・ 豊かな自然環境、貴重な生態系、美しい景観を有する一方で、適切に管理されない森林や耕作放棄地が増大するなど、貴重な資源の維持・保全が求められている。
- ・ 温泉、棚田、名水や歴史・文化等の個性ある地域資源が豊富である。

第2節 21世紀前半の経済社会情勢の転換と九州圏の課題

1. グローバル化の進展と東アジアの経済発展への対応

- ・ 発展する東アジアとの経済・文化等の多面的な国際交流を積極的に推進し、我が国におけるフロンティア拠点の形成を図っていくことが必要である。
- ・ 東アジアの成長に伴う環境問題、資源・エネルギー問題等の共通課題への対応や、技術・学術・文化等の多様な国際交流・協力を推進していくことが必要である。
- ・ 九州・中国・韓国の環黄海地域を始めとした東アジアとの経済交流を一層活発化させるとともに、それぞれの産業分野で生産性の向上や産業の高付加価値化を図り、国際競争力を高めていくことが必要である。
- ・ 国際的にも魅力ある産業立地環境や知的創出の風土を形成することにより、東アジアの成長を九州圏に取り込み、新たな発展を図ることが必要である。
- ・ 我が国と東アジアの結節点として機能し、近接地域を含めた一体的な発展を実現するため、中国圏・四国圏・沖縄等との結びつきを強化していくことが必要である。

2. 本格的な人口減少・少子高齢化の進行と九州圏の自立的な発展

- ・ 中小都市や農山漁村等では、地域活力の低下、社会的サービスの維持や地縁型のコミュニティの衰退の問題に直面しており、多様な地域の交流・連携を通じて、圏域のどこに住んでいても、一定の社会的サービスと就業機会を確保し、豊かな自然の恵みを楽しむ新たな地域モデルを構築していくことが求められている。
- ・ 全国よりも早く人口減少局面に入り、今後、本格的な人口減少・少子高齢化の進行が予測されている中で、イノベーションによる生産性の向上や産業構造の転換等を促進するとともに、多様な人材の育成や、若者・女性・高齢者等への就業機会の拡大を図ることで、安定した経済成長を図ることが必要となっている。

3. 安全・安心、環境・景観等への関心の高まりと地球温暖化等への対応

- ・ 近年の気候変動等による自然災害の質的变化に柔軟に対応するため、ハード・ソフトを合わせた災害に強い地域づくりに向けた総合的な対策が必要である。
- ・ 豊かな自然環境を美しく健全な状態で将来世代に引き継いでいくとともに、地球温暖化を抑制するため、地球規模、国際規模の環境対策に積極的に対応していくことが求められる。

- ・ 豊かな自然と共生し、美しい九州圏を次世代へ継承していくため、自然環境を保全・再生するとともに、環境負荷の少ない社会へ転換を図るため、良好な水循環系、物質循環系の構築や環境負荷の削減に向けた取組の推進が必要である。
- ・ 自然を身近で親しみが持てるものとするため、水、緑、土などの自然の価値を再認識し、景観的に美しく、魅力ある生活空間を創出していくことが必要である。

4. 価値観、ライフスタイルの多様化と新たな活動主体の成長

- ・ 豊かな自然と都市的利便性が容易に享受でき、多様な暮らし方、働き方が可能であるなど、各地域が全体的に選択可能性の高い多彩なライフスタイルが可能となる多選択社会を創造していくことが必要である。
- ・ 子どもから高齢者、障害者まで誰もが安心して暮らせ、社会参加・参画を通じ自主的で多様な生きがいを感じられる地域社会を実現していくとともに、子どもや家庭を取り巻く環境を地域が一体となって改善していくことが必要である。
- ・ それぞれの地域が地域特性を活かし、競争力の高い資源を発掘、再評価、磨き、地域への愛着を醸成することにより、自立的な発展を促していくことが必要である。
- ・ 社会的サービス、地域づくり等の行政と民間の横断的分野において、「新たな公」を基軸とした地域づくりを推進することにより、住民が自ら住む地域に誇りと愛着を持ち、生活の充実感が得られる地域社会を実現していくことが必要である。
- ・ 安全で安心な暮らしを支え、地域の活力維持を促す情報通信技術の発達を、地域づくりや交流・連携の活発化、圏土管理への活用などへ積極的に応用していくことが必要である。

第3章 新たな九州像

第1節 21世紀前半における新たな発展の基本理念

- ・ 九州圏広域地方計画の基本理念は、次の2つとする。
 - ①東アジアとともに発展し、我が国及び世界の人々が訪れ、暮らし、働き、投資したい圏域として活力と魅力あふれる九州圏となっていくこと
 - ②豊かな自然と魅力ある都市の利便性を享受できる暮らしと多様な価値観に応じて多彩な生活や就業を実現する九州圏となっていくこと

第2節 新たな九州像

- ・ 今後の発展の基本方向として基本理念を展望しつつ、九州圏の課題等へ適切に対応し、積極的に活力ある未来を切り開いていくため、次の3つを新たな九州像として掲げ、重点的に取り組むべき基本的な対応方針とする。

1. 東アジアの成長と連動し自立的に発展する九州圏の形成

- ・ 「東アジアの中の九州圏」との視点に立って、経済・文化等の多面的な交流を積極的に推進することを通じて、ともに新たな発展を目指し、共通課題の解決に向けた取組を進めていく。
- ・ 都市と産業の成長のエンジンを強化し、国際競争力を高め、我が国及び世界の人々を惹きつける魅力ある産業・ビジネス環境を形成していくことにより、東アジアの

成長を九州圏に取り込みながら、中国圏・四国圏・沖縄等との結びつきを強化し、自立的な九州圏の発展を実現していく。

2. 豊かな自然と都市的利便性を享受し多様な活躍の場を創出する九州圏の形成

- ・ 多様な地域が交流・連携することを通じて、どこに住んでいても、高次都市機能から生活支援機能までの一定の社会的サービスが受けられ、多様な就業機会を確保するとともに、豊かな自然を容易に享受でき、各地域が選択可能性の高い多彩なライフスタイルが可能となる地域社会を創造していく。
- ・ 地域特性に応じた既存産業の高付加価値化、人材育成や新分野への事業展開を図るとともに、新しい産業分野の発展を促進することにより、安定した成長を図り、若年層にも魅力ある新たな活躍の場を創出していく。

3. 安全・安心で美しく誇りが持てる九州圏の形成

- ・ 災害等のリスクに対する備えや日々の暮らしの安全・安心を確保するとともに、誰もが社会参加・参画を通じて生きがいを感じることができる環境を形成することにより、誰もが生活のゆとりと潤いを実感できる生活環境を形成する。
- ・ 豊かな自然や美しい景観、社会資本のストック等を良好な状態で次世代に継承していくとともに、地域の伝統や文化に誇りをもち、生きがいを感じられる魅力ある地域を創造することで、真に心の豊かさが実感できる暮らしの実現につなげていく。

第3節 新たな九州像を描く期間

- ・ 21世紀前半の中長期的な期間を展望しつつ、今後概ね10ヶ年間ににおける九州圏の圏土形成に関する基本的な対応方針、戦略目標等を明らかにする。

第4章 新たな九州像の実現に向けた戦略目標

第1節 戦略展開の基本的な考え方

1. 九州圏の自立に向けた圏土の基礎づくり

- ・ 九州圏として一体的な発展を促すとともに、各地域が高次都市機能から生活支援機能までの一定の社会的サービスや就業機会を確保し、豊かな生活環境を実現するための三層からなる自立的な圏域（以下「三層の自立圏」という。）を創造する。
 - 基幹都市圏を核とした九州圏全体を単位として、国際的・広域的な独自性の発揮と新たな圏土構造の構築により九州圏の自立的な発展を図る「九州自立広域圏」
 - 適度に分散した基幹・拠点都市圏と多自然居住地域が交流する地域を単位として、都市的利便性と豊かな自然環境を同時に享受できる魅力ある居住環境の形成を図る「都市自然交流圏」
 - 生活中心都市を核とした生活圏域を単位として、人口減少下であっても生活支援機能や地域の活力を維持し、暮らしやすい生活環境の形成を図る「基礎生活圈」
- ・ 三層の自立圏を基本的な枠組みとして、各地域の地域特性に応じた主体的な選択により、広域連携や自立の単位を自ら設定し、諸問題の解決に向けた戦略的な施策の展開を図っていく。
- ・ 防災、医療・福祉、学術・文化、ボランティア活動等の多岐に渡る分野において、

関連する地域の主体的な取組や既存の行政単位の枠を越えた広域的な発想の下での連携による施策の展開を図る。

2. 多様な主体の参加・連携と担い手の確保

- ・ 多様な主体による地域づくりを全面的に展開していくとともに、次世代を担う人材の育成と地域の担い手を確保していくための人材を育成し、定着する選択可能性の高い教育環境、雇用環境を形成していく。

第2節 新たな九州像の実現に向けた戦略目標

1. 東アジアへのフロントランナーとして発展する九州圏の形成

- ・ 人的、物的、経済、技術・学術・文化等の多岐に渡る関係の深化により、東アジアと我が国を結ぶ個性的で魅力ある国際交流フロンティアを形成していく。
- ・ 成長型・牽引型産業について、戦略的な産業展開により、東アジアにおける独自の役割を担いながら、九州圏の一体的な発展を図っていく。
- ・ 交流・連携や経済・産業の発展を支えるため、東アジアと広域ブロックの拠点間を結ぶ交流連携軸を形成し、東アジアへのゲートウェイ機能の強化等を進めていく。

(1) 東アジアと我が国の結節点として魅力ある国際交流フロンティアの形成

東アジアと我が国を結ぶ国際交流フロンティアの形成／環黄海地域を中心とした経済圏の確立 等

(2) グローバル化に対応した成長型・牽引型産業群の形成

成長型・牽引型産業の高付加価値化、立地環境の整備、基盤産業の強化・拡大／産学官連携による研究開発の促進、人材育成／次世代成長期待産業の育成・強化 等

(3) 新たな発展を実現する東アジア国際交流軸と広域ブロック連携軸の形成

主要都市間の有機的な連結による東アジア規模での交流・連携の推進／東アジアへのゲートウェイ機能の充実・強化 等

2. 基幹都市圏を核とした多極型圏土構造と九州圏の一体的な発展

- ・ 基幹都市圏が適度に分散した特徴を活かし、九州圏における個性的で魅力ある拠点として基幹都市圏を核とした多極型圏土構造を形成していく。
- ・ 基幹都市圏を中心として創造的都市の形成を図り、多彩な人材を育成する環境を形成していく。
- ・ 基幹都市圏の高次都市機能を充実・相互補完し、広範囲で享受できる環境の形成と新たな発展を促すための基幹都市連携軸を形成していく。

(1) 多極型圏土構造の極となる個性的で魅力ある基幹都市圏の形成

基幹都市圏相互の機能分担と連携／個性的で魅力的な都市圏の形成 等

(2) 文化・知識集約化による創造的都市の形成と多彩な人材の育成

創造的な活動空間の形成による創造的都市の形成促進／研究開発機能とその活動を担う独創的な人材の充実／圏域内部からの自立的な産業創出の風土醸成 等

(3) 九州圏の一体的な発展を実現する基幹都市連携軸の形成

基幹都市圏の有機的な連結による基幹都市圏間の交流・連携の推進 等

3. 災害・環境ハザード最前線における安全・安心で美しい九州圏の形成

- ・ 今後、懸念される災害・環境面でのリスクの増大等に適切に対応するための先導的な災害・環境保全等の対策を推進する。
- ・ 減災の視点も取り入れ、ハード・ソフト対策が一体となった災害に強い地域づくりを進め、安全で安心な暮らしを支えるための広域的な連携体制を形成していく。
- ・ 人と自然とが持続的に共生した我が国を先導する美しい環境・エネルギー先進圏の形成を目指し、恵まれた多様な自然環境を次世代に継承していく。
- ・ 循環型社会の形成、地球温暖化対策等を積極的に進める。

(1) 九州圏の総合力発揮による安全で安心な暮らしの実現

防災対策と減災の視点を重視した対策の一体的な推進／防災・危機管理体制や救急医療、水資源の確保等における広域的な連携 等

(2) 我が国を先導する美しい環境・エネルギー先進圏の形成

美しい自然の次世代への継承／環境・リサイクル、エネルギー分野の先導的な取組等を活かした循環型社会の構築／地球温暖化の防止対策等を積極的に推進 等

4. 基幹・拠点都市圏と多自然居住地域の交流による都市自然交流圏の形成

- ・ 基幹・拠点都市圏と多自然居住地域の交流・連携により、高次都市機能等の社会的サービスや就業機会を確保するとともに、豊かな自然環境を享受し、選択可能性の高い多彩な価値観、ライフスタイルの実現が可能な自立的圏域を形成していく。
- ・ 基幹・拠点都市圏と多自然居住地域の間において、水・緑・食・安全等の互恵関係を形成するための都市自然交流軸を形成していく。

(1) 広域的な都市的利便性を実現する基幹・拠点都市圏の形成

都市規模や地域特性に応じた都市機能の充実・強化／広域的な都市的利便性を実現する魅力的な都市圏の形成 等

(2) 水・緑・食・安全等の互恵関係を実現する都市自然交流軸の形成

基幹・拠点都市圏と多自然居住地域の有機的な連結による多様な交流・連携の推進／二地域居住、定住等を実現するための魅力ある居住環境の形成 等

5. 生活中心都市を核とした安心でゆとりある基礎生活圏の形成

- ・ 基礎生活圏における生活支援機能の維持・向上を図り、持続可能で暮らしやすい基礎生活圏を形成していく。
- ・ 誰もが安心とゆとりを実感できる子育て環境や人に優しい生活環境の形成を図る。
- ・ 農林水産業や観光産業など生活活動に密着した地域産業の新たな展開を図る。
- ・ 生活支援機能の分布状況や隣接地域の自然・文化・活動等の状況に応じた連携強化を促進することにより、生活文化交流軸を形成していく。

(1) 生活支援機能の維持・向上を実現する基礎生活圏の形成

価値観や生活様式の多様化に応じたゆとりある居住環境と豊かなライフスタイルの実現／基幹・拠点都市圏へのアクセスによる高次都市機能の提供／基礎的な医療・福祉等の生活支援機能の多自然居住地域内で享受できる環境の実現 等

(2) 誰もが安心とゆとりを実感できる子育て・生活環境の形成

子どもを安心して生み育てることができる子育て環境の形成／高齢者等が安心して暮らせ、社会参加等を通じて生きがいを感じることのできる長寿社会の実現 等

(3) 生活活動に密着した地域産業の新たな展開

成長が期待される生活充実サービス分野への産業構造の転換／地域産業の高付加価値化、新分野への事業展開の促進／産業立地環境の整備等による多様な雇用機会の創出 等

(4) 生活・文化・活動等の一体化を促進する生活文化交流軸の形成

既存の生活支援機能の分布状況に応じた暮らしやすい基礎生活圏の形成／生活支援機能の充実や隣接地域間の共通課題解決に向けた機能分担と相互補完の推進 等

6. 離島・半島、中山間地域等の地理的制約を克服する豊かな定住環境の形成

- ・ 離島・半島、中山間地域等の地理的制約の厳しい地域における都市機能と生活支援機能、就業機会等の一定の基礎条件の確保を図る。
- ・ 離島地域については、自立に向けた競争条件の改善等を図りながら、自然環境等を活かした産業振興や島内で一定の社会的サービスの維持を可能とする豊かな定住環境を形成していく。

(1) 地理的制約を克服する生活イノベーションの展開

魅力ある就業機会や生活環境の整備等の定住条件の改善／地理的制約を克服し、恵まれた自然環境を享受できる豊かな定住環境の形成 等

(2) 離島地域における海洋性気候等に恵まれた豊かな定住環境の形成

特色ある農林水産業や観光産業等の振興と就業機会の確保／島内で一定の生活圏を形成するための広域的な対応等による定住条件の改善 等

7. 九州圏の各地域の個性を活かした先導的な地域づくり

- ・ 恵まれた地域資源を最大限に活用した先導的な地域づくりの展開により、自然、歴史・文化等が融合し、創造性あふれる豊かな地域づくりを促進していく。
- ・ 多様な活動主体を基軸とした取組を進めることにより、地域社会の絆に根ざした自立的な発展を促進する。
- ・ 社会的サービス、地域づくり等の行政と民間の横断的な活動分野について、志ある多様な主体の創意工夫に基づく取組を推進する。
- ・ 地域社会の活動を次世代に継承するための担い手の育成等を図る。

(1) 恵まれた地域資源を活用した先導的で創造性あふれる地域づくり

地域資源を活用した個性豊かな地域文化の継承、育成／地域の創意と工夫により魅力ある地域づくりによる交流人口の増大、所得機会の確保、地域の活性化 等

(2) 多様な活動主体を基軸とした地域づくりと地域の担い手育成

地域住民、NPO、企業等の多様な主体による創意と工夫に基づく地域づくり／「新たな公」を基軸とした地域づくりの展開／「資金の小さな循環」の形成 等

第5章 戦略目標に沿った広域連携プロジェクト（概要）

第1節 東アジアへのフロントランナーとして発展する九州圏の形成

1. 九州圏の個性と魅力を創出する国際交流・協力の推進

国際的なイベントの開催／国内外の自治体間の草の根交流／東アジアとの共通課題解決型の交流・連携等の推進／国際感覚豊かな人材の育成 等

2. 東アジア（環黄海）経済圏の確立とアジア規模の知的拠点の形成

環黄海地域を中心とした経済活動等における緊密な連携・協力関係の構築／アジア規模の高度な知的拠点の形成／国際的に魅力ある産業・ビジネス環境の形成 等

3. 九州圏の持続的な成長を実現する成長型・牽引型産業群の形成

自動車、半導体産業等を始めとした成長型・牽引型産業群の形成／成長期待産業の育成による次世代の産業群の形成 等

4. 東アジアへの近接性等を活用したフード・観光アイランドの形成

高品質で安全・安心な農林水産物や食料の生産・輸出拠点としての発展／広域的な観光連携／フード・観光アイランドの魅力や知名度の向上を図るための取組 等

5. 新たな発展を実現する東アジア、広域ブロックとの交流・連携の推進

主要都市間を有機的に連結する東アジア国際交流軸と広域ブロック連携軸の形成／東アジアとの交流・連携を支えるゲートウェイ機能の充実・強化／他の広域ブロックとの交流・連携を支える交通・情報通信基盤の形成 等

6. 身近になる近畿圏等との観光・交流の推進

九州新幹線の整備に伴う魅力的な交流拠点の形成／広域的な波及効果を実現するための広域観光、広域連携による取組／各地域の魅力や知名度の向上に向けた取組の広域的な展開 等

第2節 基幹都市圏を核とした多極型圏土構造と九州圏の一体的な発展

1. 多極型圏土構造の極となる個性的で魅力ある基幹都市圏の形成

福岡・北九州都市圏を中心としたアジア交流広域都市圏の形成／基幹都市圏の個性と魅力の向上 等

2. 文化・知識集約化による創造的都市の形成と多彩な人材の育成

芸術文化、知識財産業等が集積する基幹都市圏における創造的都市の形成／知識集約型の多様な産業の創造に向けた大学・研究開発機関等との連携強化や独創的な人材の充実・強化／産業創出の風土を醸成するための取組 等

3. 九州圏の一体的な発展を実現する基幹都市連携軸の形成

基幹都市圏間を有機的に連結する基幹都市連携軸の形成／基幹都市圏間の交流・連携を支える高速交通・情報通信基盤等の形成 等

第3節 災害・環境ハザード最前線における安全・安心で美しい九州圏の形成

1. 減災の視点も重視した災害に強い地域づくり

災害に強い地域づくりの実現に向けたハード対策の重点的な実施／ハード・ソフト対策の一体的な推進による減災の視点も重視した災害に強い地域づくり 等

2. 安全で安心な暮らしを支える広域セーフティネットワークの形成

防災・危機管理体制、救急医療、水資源の確保等における広域的な連携強化 等

3. 美しく自然豊かな環境・景観に親しみ継承していく地域づくり

恵まれた多様な自然環境の保全・再生と健全な状態での次世代への継承／豊かな自然環境を身近に感じ、親しむことができる生活空間の創造 等

4. 我が国を先導する環境負荷の少ない環境先進圏の形成

環境・リサイクル分野の技術等の蓄積を活かした循環型社会の構築に向けた先導的な取組／貴重な水資源、閉鎖性海域等を良好で持続可能な資源とするための取組 等

5. 地球環境に優しく持続可能な省CO₂・エネルギー先進圏の形成

産学官や地域住民の連携による地球温暖化防止に向けた省CO₂化対策／環境・エネルギー分野の先導的な取組等を活かした、我が国でも最先端のエネルギー需給構造の実現に向けた取組 等

第4節 基幹・拠点都市圏と多自然居住地域の交流による都市自然交流圏の形成

1. 広域的な都市的利便性を実現する基幹・拠点都市圏の形成

基幹都市圏における高次都市機能の充実・強化や暮らしやすさの向上／拠点都市圏における都市機能の充実・強化／基幹・拠点都市圏における集約型都市構造への転換や安全で快適なまちづくり 等

2. 水・緑・食・安全等の互惠関係を実現する都市自然交流軸の形成

高次都市機能を有する基幹・拠点都市圏と自然的機能を有する多自然居住地域等の双方向の交流／都市と多自然居住地域を広域的に連結する都市自然交流軸の形成／多面的な機能を有する森林や農用地等の保全・管理／魅力ある二地域居住、定住環境の形成等／交流・連携を活性化させる交通基盤の形成 等

第5節 生活中心都市を核とした安心でゆとりある基礎生活圏の形成

1. 生活支援機能の維持・向上を実現する基礎生活圏の形成

生活中心都市における生活支援機能の充実・強化や集約型都市構造への転換 等

2. 誰もが安心とゆとりを実感できる子育て・生活環境の形成

子どもから高齢者、障害者まで地域社会への参画を通じた社会的な絆の再生 等

3. 生活活動に密着した地域産業の新たな展開

今後大幅な需要増が見込まれる分野への産業構造の転換／既存産業の高付加価値化や新分野への事業展開／それぞれの地域における魅力ある雇用機会の創出 等

4. 生活・文化・活動等の一体化を促進する生活文化交流軸の形成

多自然居住地域における一定の生活関連サービスを維持するための隣接地域間の機能分担と相互補完／生活・文化・活動面での一体化に向けた生活文化交流軸の形成

／隣接地域間の交流・連携基盤の形成 等

第6節 離島・半島、中山間地域等の地理的制約を克服する豊かな定住環境の形成

1. 地理的制約を克服する生活イノベーションの展開

都市部へのアクセス、生活交通等の移動手段や医療等の社会的サービス等の確保／地域の特色や地域資源を活用した取組による交流人口の増大、基幹産業の振興等／高度情報通信社会の到来を享受できる生活環境の形成 等

2. 離島地域における海洋性気候等に恵まれた豊かな定住環境の形成

都市部への定期的な交通アクセス、救急医療等の社会的サービスの確保／美しい生活環境の形成／離島にしかない特色や地域資源を活用した取組による交流人口の拡大／農業・水産業等の振興／島内における一定の生活圏の形成 等

第7節 九州圏の各地域の個性を活かした先導的な地域づくり

1. 恵まれた地域資源を活用した先導的で創造性あふれる地域づくり

恵まれた地域資源を最大限に活用した先導的な地域づくり／歴史・文化を活かした地域づくり／個性豊かな新たな地域文化を創造し、情報発信していく地域づくり 等

2. 多様な活動主体を基軸とした地域づくりと地域の担い手育成

多様な主体の参加の下での先導的な地域づくりや新たな公による取組／資金の小さな循環の形成等の持続可能な地域づくりの実現に向けた取組 等

第6章 計画の効果的な推進

1. 投資の重点化・効率化と総合的なマネジメント

- ・ 九州圏広域地方計画に掲げた戦略目標に沿った主要施策の達成に必要な基盤の整備について重点的に投資を行う。
- ・ 投資の効率化、目的に応じたソフト施策の一体的な推進、ライフサイクルコストの最小化を図る。

2. 計画の推進体制

- ・ 九州圏広域地方計画協議会において、各プロジェクトの目標の明確化を図り、プロジェクトの進捗状況や成果をモニタリングしていく枠組みの検討を進める。
- ・ プロジェクトの実施に当たっては、実施主体の明確化を図り、実施主体間の綿密な連携の下、各プロジェクトの目標の達成に向けた取組を推進していく。
- ・ 計画の推進に当たっては、国と地方の適切な役割分担・連携や多様な主体の取組の下、既存の総合的・統括的な組織との連携・調整を図り、実効性を高めていく。

3. 他の計画等との連携

- ・ 計画の実施に際しては、国土利用に関する諸計画、各県の総合計画を始めとする各種長期計画と緊密な連携・調整を図る。
- ・ 計画は、社会資本整備重点計画を始めとした実施計画等を通じて具体化していく。